

倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会（第2回:全体会） 会議録

1 日 時 平成27年1月23日（金）午後1時30分～2時30分

2 場 所 市役所大会議室（本庁舎3階）

3 出席者

（1） 委員13名 欠席5名 （安岡委員、小谷委員、岩崎委員、藤原委員、福井委員）

（2） 事務局3名（美船課長、毛利企画員、竹田主任）

（3） オブザーバー5名（三朝町：福田企画観光課主任、琴浦町：遠藤企画情報課長、北栄町：河上政策企画課主事、湯梨浜町：中本企画課長 広域連合：松井企画員）

4 会議の概要

会議次第に基づき、委員の紹介の後、次期共生ビジョン(素案)及びパブリックコメントの実施について説明し、意見をいただいた。

5 会議の内容

1 開会

美船課長：皆様、本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、只今から平成26年度倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会第2回全体会を開会いたします。

2 委員の紹介

美船課長：初めに会議次第の2番、委員の紹介に入らせていただきます。前回の懇談会を欠席された委員の方もおられますので、今回出席いただいた委員の皆様にご紹介をさせていただきます。

それでは、事務局の方から委員名簿の順にご紹介いたします。まず、公益社団法人 鳥取県中部医師会 会長、松田委員様でございます。続きまして、倉吉市体育協会 会長、生田委員様でございます。そして、湯梨浜町の町民代表として遠藤委員様でございます。なお、本日欠席の連絡をいただいておりますのは、鳥取県介護支援専門員連絡協議会中部支部 副支部長の安岡委員様、倉吉市学校教育審議会 会長 小谷委員様、とっとり梨の花温泉郷広域観光協議会 会長 岩崎委員様、鳥取中央農業協同組合 参事 藤原委員様、北栄町の住民代表 福井委員様、以上の皆様でございます。

3 会長あいさつ

美船課長：それでは、会議次第に基づきまして、開会に当たりまして、本懇談会の山田会長様からご挨拶をいただきたいと思っております。

山田会長：こんにちは、この会の会長ということで仰せつかりました山田です。これまでの復習をしていただきたいと思っておりますが、前回の12月22日の懇談会で、事務局の方から共生ビジョンの素案が出されました。その素案について、各委員から色々なご意見をいただきました。その後、担当者会等でこれらの意見等への対応や、数値のついていなかった目標数値であるとか、予算の概算額などを取りまとめ、今回報告していただきます。今日はそうしたものに基づきながら、皆様のご意見をいただいて、それを受け止めていきます。その後、パブリックコメントを行います。それにかけたものを、2月17日に

再度この会を開催し、確認をするという、こういった手続きで進めさせていただきます。
どうぞよろしくお願いいたします。

美船課長：それでは、会議に入らせていただきます前に2点、ご連絡いたします。まず、1点目としましては会議の成立案件でございます。本日の出席委員様は、定員18名中、12名の方にお越しいただきましたので、委員の過半数を満たしていますことを、ご報告申し上げます。次に本日の日程でございますが、この後、会議次第に基づき、進めさせていただきますが、会議は概ね一時間程度を予定しておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

それでは、設置要綱第6条第1項の規定によりまして、ここからの進行は、山田会長様をお願いしたいと思います。

4 協議事項

(1) 第2次定住自立圏共生ビジョン（素案②）について

山田会長：お聞きのように限られた時間ですので、効率よく進めたいと思います。それでは、4番目の協議事項、(1) 第2次定住自立圏共生ビジョン（素案②）について事務局の方から説明をお願いします。

竹田主任：事務局から説明をさせていただきます。第2次定住自立圏共生ビジョン（素案②）について説明させていただきます。説明に使う資料ですが、お手元の資料1-1、1-2、1-3、そして資料2を使って説明をさせていただきます。まず、資料1-1ですが、こちらが共生ビジョンの素案②としまして、前回提出した素案に対し、必要な修正を加えたものです。修正箇所をまとめたものが、資料1-2でございます。そして、修正箇所が分かるようにしたものが、資料1-3でございます。

細かい部分を説明しますと、かなりの時間がかかりますので、変更したポイントをまとめたものとして、資料1-2、こちらの内容に従いまして解説をさせていただきます。まず、素案②の変更点としましては、前回の懇談会に提案しました素案の内容につきまして、各分野の専門部会の担当者会で協議を行いました。その内容を踏まえた必要な修正を加えています。この部分につきましては、資料1-3の中で、青色のアンダーラインで判別できるように表示しております。次に、第3章の各事業の取り組み成果の項目ですが、各事業の具体的な目標値の欄がありますが、こちらの数値が入っておりませんでした。この部分につきまして、目標値の設定を行っております。資料1でいいますと、25頁からの内容になります。こちらの頁に「ア 指標」という項目がございます、その次に「イ 実績」としまして、その中にそれぞれ目標値の欄がございます。こちら、それぞれアに対する目標値が設定されています。

次に、同じく第3章中ですが、それぞれの具体的な事業の概算事業費が入っていませんでしたので、担当者会での協議の結果、概算事業費の項目を入れさせていただいています。こちらにつきましては、資料2で一覧にまとめています。総額で、1次の計画に対して8,600万円程度の増額になっております。増額になった主な理由としましては、病児・病後児保育の関係が4,400万円、とっとり梨の花温泉郷広域観光協議会支援事業の関係が1億4,600万円、観光商品の開発強化等による観光推進事業の関係で3億5,600万円、中部定住自立圏雇用創出促進奨励事業としまして4,000万円、

地産地消の拡大事業としまして1,000万円、中部消費生活センター運営事業としまして2,100万円がそれぞれ増額となっております、これらが事業費増額の主な要因となっております、第2次ビジョンにおきましては、子育て、観光、地産地消という部分で力を入れさせていただいています。

次に、広域観光の取組として八橋往来関係事業の項目を加えました。これにつきましては、前回のビジョン懇談会で琴浦町さんから提案があった内容です。その後、担当者会を開催しまして、その協議の結果、圏域の取組としてやっていくことになりましたので、こちらに掲載させていただいています。資料1-1の45頁下段の内容になりまして、八橋往来周辺の魅力創造発信事業として掲載させていただきました。事業の内容としましては、平成27年度に、街道沿いの史跡等の調査研究を行います、平成28年度にはこの調査研究結果に基づきまして、圏域で研修会や講座を開催し、周知等を行っていきます。29年度以降は、この街道跡をいたしましたウオーキングイベントなどを開催していきたいと思います。事業費としましては、平成27年度は特に計上しておりませんが、平成28年度以降は、概算で100万円ずつ計上させていただいています。事業費の負担につきましては、各市町で、イベント等に必要な費用をその都度負担するとさせていただいております。八橋往来の関係は以上でございます。

続きまして、同じく第3章中ですが、企業誘致の関係で、雇用創出奨励制度というものを加えました。こちらは、49頁の内容となっております。鳥取県中部定住自立圏雇用創出促進奨励事業としまして、事業を設定しました。この事業は、現在、各市町の企業で新規に雇用が創出された場合に、補助金等を給付する事業を行っていますが、こちらがそれぞれの市町の企業が、それぞれの市町の住民の方を雇用した場合にしか対象にならない状況にあります。実態としましては、それぞれの市町で雇用を全てまかなうことができない状況がありまして、他の市町の住民の方を雇用された場合は、補助金を受け取ることができない状況があります。こういった状況が、圏域の企業の雇用創出の意欲を削いでいるという、地域の産業活性化を阻害する要因になっているという状況がございますので、これらを圏域で協力いたしまして、圏域で雇用があれば、全体でそちらを補助していこうという取組みでございます。事業予定としましては、27年度中に制度設計をいたしまして、28年度以降から前年度の実績に基づいて給付を行っていく予定です。鳥取県西部におかれましても同様の制度が見られますが、そちらの給付金額を基準に、概算事業費を設定しておりまして、平成28年度には予定としまして、40件、平成29年度に45件、平成30年度に30件、平成31年度に20件の補助を予定しております。5年間で、総額4,000万円程度の事業費を見込んでいます。

その他、全体に渡りまして、必要な文言の修正を行ってまいります。以上が、主な変更ポイントになります。

続きまして、前回のビジョン懇談会で委員の皆様から提案のあった内容につきまして、その対応について説明させていただきます。資料1-2の中段からの内容になりますが、前回の懇談会で市営陸上競技場と野球場の駐車スペースの拡充について提案いただきました。こちらについて検討させていただきました結果、以前の懇談会でお話されていたとおり、平成23年度に市営野球場施設に不備があるということで、高校野球の大

会として適格でないと言われたことがありました。しかし、その後に必要な施設改修などの対応を実施しておりまして、今後も、計画的に改修を実施する予定にしております。また、駐車場につきましては、平成24年度に約90台分を増設整備いたしました。さらに、夏の大会の際には、ボランティアの交通整理員の方に協力いただきながら、成徳小学校の敷地などを臨時的駐車場として借りるなど、高野連と協議しながらスムーズな大会運営の対応を行っております。このような状況から、この定住自立圏の取組として、新たに駐車場を整備するという点については、取り組みを行わないこととしたいと思っております。ちなみに、前回の懇談会で、平成26年度に駐車場の官渠工事の設計業務の様子についてご質問いただきましたが、それにつきましては1月15日に業務が完了しております。平成27年度秋頃には、こちらの工事に着工できる予定でございます。続きまして、中部発！食のみやこフェスティバルの常設化についてであります。こちらの方を農林関係の担当者会で協議いただきました。このイベントにつきましては、鳥取県中部地域の農林水産物等を結集して、県内外の消費者に広くPRするために、地元企業、行政、生産者等が一体となって協力いたしまして、期間限定のイベントとして毎年度定期的で開催しているものでございます。食に関するおまつりということで、農林水産物の直売、屋台、伝統芸能・文化活動などのステージイベント、アーティストによるライブ、講演会、お楽しみ抽選会等々、こういった企画を複合的に実施するイベントということで、企画運営をされておりまして、イベントの性格上、通年で行う事業ではないのかなということございまして、この件については、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

次に、定住自立圏と地方創生について、民間レベルでの勉強会の開催をという提案ですが、こちらにつきましては、我々の方で企画しておりました事業が、行政職員のみ限定しておりましたので、対象を職員に限定せず、民間の方も参加していただける企画とし進めていこうと思っております。

次に、NCNとTCCによる情報の相互発信につきましては、これまで続けている関係機関との取り組みを継続的に実施してまいりたいと思っております。

それと、こちらに記載しておりませんが、ビジョンの素案に幼稚園が4件とうことで記載がありまして、これは認定こども園になっているのではと指摘をいただいた件ですが、確認をしましたところ、確かに認定こども園になっているのですが、認可自体は幼稚園のようですので、このままの記載で間違いではないということのようですので、記載のとおりとさせていただきます。

次に、ビジョン懇談会の際に、懇談会終了後に、意見があれば12月26日までに事務局に電話で連絡をということで承った件ですが、こちらに記載しております。主に3点の提案がございました。まず初めに、地方創生戦略に絡めた、奨学制度の充実についてということですが、現在、新聞等で報道がありましたが、自治体や企業で地域の求める人材を提案いたしまして、それに適応する人材が地域で雇用された場合、その学生が日本学生支援機構から奨学金を受けていた場合に、その奨学金を減免し、その額は地元の自治体と企業が負担するという制度について現在検討がされています。これに関連する取り組みを中部でもできないかという提案がございましたが、国の方でも現在

検討中というところでございますので、その動向を注視しながら、引き続き検討を続けたいと思います。

次に、芸術に触れる教育環境の充実ということですが、中部地域でそのような取組みを進めてみてはどうかという提案をいただきました。これにつきましては、他の圏域の事例を見ますと、圏域での文化芸術祭などの取組の事例が見られます。こういった前例を見ながら、本圏域でもそのようなニーズがあれば対応できるよう、引き続き調査研究を行っていききたいと思います。

次に、圏域での通学費補助制度の充実ということで提案いただきましたが、これにつきましては、現在、それぞれの自治体で取組みを進めておられます。こちらにつきましては、中部地区公共交通協議会等と連携しながら、課題の把握、その解決の方法など、今後協議を進めていききたいと思います。

以上で、素案②の説明を終わらせていただきます。

<質疑応答>

山田会長：では、皆さん方から質問の方がありましたら、お願いします。

福井委員：資料1-1の45ページの八橋往来の魅力発信事業ですが、平成27年度は調査研究で予算ゼロということですが、これでいいのかということが一つ、それと、八橋往来は、琴浦から倉吉の方まで来ていますが、調査研究をするのはどちらの市町を対象にされているのか、この2点について聞かせてください。

美船課長：この件につきましては、具体的な調査研究の内容のところはまだ、前回の懇談会から現時点までで議論が進んでいないようでございます。それらも含めて、平成27年度の段階で各市町の関係職員が集まって具体的な調査研究の中身から詰めていきたいということで、実際の始動につきましては、平成27年度からということでご理解いただきたいと思います。

福井委員：分かりました。

山田会長：他にいかがですか。

谷本委員：先ほどの件に絡んでですが、平成27年度の事業費がゼロで、平成28年度から調査研究。次の雇用創出についても、平成27年度の事業費がゼロということですが、私らの感覚として、ものすごく遅いと思います。1年間かけて調査や制度設計ということですが、これが必要だと思ったら、今年度から実行に移していかないと。あまりにも遅いですよ。本当に遅いです。早くしてもらいたいと思います。1年間かけないとできないのですか。

美船課長：確かに、調査研究に至るまでの具体的な協議は行っているのですが、平成27年度に行う具体的な調査の内容を現段階で詰め切れておりません。平成27年度までに詰め切れるところは、当然詰めていきます。

谷本委員：私は、平成27年度に実行に移していかないといけないと思います。これをやりましょうという方向なわけでしょう。

美船課長：当然、実施するわけでございますが、調査研究に係る経費については、どんな経費を使ってやるということまでは、議論が進んでいないということです。おそらく、職員を中心とした調査研究を想定しているのではないかなと考えますが、具体的な金額は挙げ

ておりません。

谷本委員：いやいや、平成28年度は100万円計上されているじゃないですか。

美船課長：これは、イベントを実施する際に、行政業務の経験上、これぐらいあればイベントができるということで、計上しているものでございます。

谷本委員：そういうものは平成28年度からじゃなくて、平成27年度からできるじゃないですか。例えば、調査研究を5月、6月までに終わらせて、7月からイベントを行う方向で、それで予算は100万で行きましょうと、そういうことができると思うのですが。民間の感覚からいうともっと早くできるものだと思いますよ。

美船課長：平成27年度中に、一定の調査研究が早い段階でまとまれば、年度中に関係するイベントを実施するような、おっしゃられるような取り組みができると思うのですが、そこまで調査研究が至らないであろうということで、こういった計画とさせていただいております。

谷本委員：私の感覚では、計画を何月までにするかということで、1年かけてということではないのです。3カ月で計画して、4カ月目から実行して行くのですよ。

美船課長：担当の部局にはそのように伝えますが、調査研究が早く終われば良いというものでもありませんので、必要な調査を行いながら、スピード感を持って進めていきたいと思えます。

谷本委員：私達の感覚では、12カ月かからないと思うのです。

山田会長：いただいた意見を担当の部局に伝えるということですから、その辺りで。そういったご意見があったということで、事務局の方で受け止めてください。そのほかには。

谷本委員：駐車場の件ですが、平成24年度に90台分を整備して色々な対策を立てたということですが、私達はいつも来ていますが、平成25年度も平成26年度も駐車場がありません。本当に圏域的に取り組まないと。それと、平成27年度に何かすることで話が合ったけど、よく分かりません。

竹田主任：既存の陸上競技場駐車場の排水設備が老朽化しておりまして、こちらの方の修理が必要とのことです。今年度中に、工事設計をさせていただきます。そちらの方の修理を、平成27年度に実施するとうことでございました。

谷本委員：取り組みを行わないということのようだけど、私としては取り組みをして、いつでも車で出入りできるようにしないと十分でないと思います。どういう感覚で検討したのか、どこで検討したのか、実情を本当に理解しているのか、疑問を感じます。

生田委員：この駐車場の件ですが、取り組みを行わないこととしたいという、この考え方についてですが、これは平成24年度に90台分を増設したから、これで十分だということなのか、あるいはこれ以上増やす場所はないということなのか、その辺りを教えてください。

竹田主任：すいません、そういう意味ではございません。鳥取県中部圏域としまして、1市4町の取組として駐車場を増やすとうことはやめましょうということとして、倉吉市として駐車場を増設するというのは別の議論となります。

美船課長：参考までに、今の駐車場の状況を説明いたします。現在、陸上競技場周辺に400台の駐車スペースがございます。加えまして、臨時の駐車場としまして成徳小学校等の敷地を使わせていただきますと、200台ということで、併せて600台のスペースが用意

できます。加えて、現在、老人センターの解体工事をしておりますが、解体後には600台の駐車スペースが設けられる予定になっています。ちなみに、今申しました台数には、この市役所裏、前の駐車場は含まないところで、600台後半のスペースは確保できません。鳥取市の布勢運動公園の駐車場が1000台ということのようでございます。大会の規模間、頻度にもよりますが、今のところのこういった駐車場を確保しているという状況でございますので、1市4町での取り組みではなく、倉吉市なりの課題とさせていただきます。

谷本委員：鳥取市でさえ停める場所がないのです。鳥取・米子は停める場所はありませんが、中部にはいくらかでも停める場所がありますという方向で行った方が良いと思います。

美船課長：今現在の駐車場としての使いにくさ、以前のように高野連の方から使いにくいということが言われなくなりまして、一定のレベルになっておりますので、それ以上更に上のレベルを目指すとういことには、なかなかできないものですので、この状況にできたとういことで、今後の推移を見ていただきたいと思います。

山田会長：はい、ほかに意見はございませんか。

谷本委員：食のみやこの件ですが、今までどおりにイベントでやりますということですが、定住自立圏の懇談会からこういう意見を出して、それは却下ということですが、これはどこでどのような検討を行ってこうなったのですが。

美船課長：食のみやこの関係ということで、各市町の農林関係の担当で検討を行ったものでございます。

谷本委員：常設はいらないということですか。

美船課長：フェスティバルということで、イベントで行っておりますので、常設ということになりますと、イベントではなくて次の段階の取り組みになるであろうと思います。当面、これはイベントとしてやっていくものでございます。

谷本委員：私達は、イベントということで検討しているわけではないのですよ。定住自立圏ということで、この地区を元気に活発にして、よそからどんどん人が来てもらうためにはどうしたらいいのかとということで提案させていただいたわけで、イベントをどうこうしろとは言っていないのです。イベントをやっても、あれだけのものなのですから、常設をして中部の自立圏をいいものにしたら良いじゃないかということで提案したわけですよ。イベントだったらいいですよ、だけど私はイベントじゃもったいないという提案をしたのですよ。2日間じゃもったいない、もっと全国に広めて、どんどん人が来てもらって、中部が元気になればいいじゃないということなのですけどね。

美船課長：常設ということだと、地産地消の店ですとか、ファーマーズマーケットというようなものによって地産地消が振興されることが、常設として地産地消に繋がるものだと思います。それは、現在、たくさんのファーマーズマーケットが賑わいを見せています。それに加えて、それを更に伸ばすために、このようなイベントを通じて、地産地消を全国や地域内に発信していき、ファーマーズマーケット等で地域の産品が消費されるという状態に持っていくためのきっかけとしては、こういったイベントが大事であろうと思いますので、これをイベントとしてやっていきたいというのが、この内容でございます。

谷本委員：今まで何年もイベントでやってきているけど、そうならないじゃないでしょう。全国

的に広まってないでしょう。だから、私は提案しているのです。

美船課長：現在、圏域にもそういった農産物の直売所、店舗、施設が増えておりますので、こういった取り組みの成果は見えてきていると思います。

谷本委員：ちょっと、長くなってすみませんけどね、あの……

山田会長：ちょっといいでしょうか、この共生ビジョンの懇談会は決定機関ではないので、色々な意味での提案はさせていただくというのは事実なんですけど、ここで提案してもらったことが決定できるという会ではありませんので、それは知っておいてください。そして、色々な意見を圧着しながら、これに入れられるかどうかを検討していただくという性格の会です。それで、あえて懇談会と言っていると思います。

谷本委員：それは分かりますよ。でも、私は、提案者として納得できませんよ。

山田会長：全員の提案という形ではなかったと思います。谷本さんだけで、進めるわけではいかないのです。先ほどの八橋往来の時は、皆さんで議論して、全員でお願いしますということと議論したんですけども、この件については、全員で話し合っただけでないので、その辺りご理解いただきたい。

谷本委員：それは分かりますよ。私はね、とにかくこのイベントに参加された方から、これを2日間で止めずに、ずっとやるような方向でできないかという意見を聞いているのです。参加した団体や、業者からですよ。2日間だけじゃもったいないと。この会が決定機関でないということは分かりますよ、けども、やっぱり中部定住自立圏というのは、全国で競争してどんどん良くなっていきましょうというのが目的だと思うのですね。そういうことを言ったら、今までと同じことをやって良くなったらいいんですけども、今までやってもったいないと、もっと発展させても良いじゃないかと、そういった意見もあると思うんですよ。

美船課長：谷本委員様から、強い意見をいただきましたので、この件は担当の方にお伝えしておきますので、また議論をしていただきたいと思います。

山田会長：他にいかがでしょうか。

遠藤委員：すみません、谷本さんの意見に僕自身具体的にイメージできない部分があるんですが、あれを一年中ずっとするのですか。例えば、100社ぐらいの既に店舗をお持ちの方が、その日だけ一同に集まってやっておられるわけですが、その時は、確かに収穫があると思うのですが、そういった場所を新たに作って欲しいということですか。となると、既に店舗をもって営業されている方は、毎日そこに行けるかとなると難しい部分もあると思うのですが、谷本さんのイメージとして年間通してずっとするという部分が、僕にはイメージがわからないのですが。

谷本委員：あの、それはですね、鳥取県中部を中心とした倉吉、要は元気にならないといけないわけでしょう。そのために、よそからどんどん人が来ないといけないわけでしょう。まあ、観光にも影響してきますし。なら、この鳥取県中部が全国を相手にして強みってなんだろうということを考えてみたときに、ディズニーランドとかああいうものでは絶対に勝負できないわけですから、だから全国的に見て鳥取県中部が何で勝負をするか、何が売りなのかということを考えてみたときに、やっぱり農産物、海産物、そういった一生懸命作っておられる物をもっとアピールしていくのがやっぱり強さを発揮できると思

うんですよ。それで、それ以外に強いものがあつたらいいのですけどね、その強さを発揮するために、そういうイベントがあつて、イベントを通年するという方法もあるでしょうし、要はそこで鳥取県中部を切磋琢磨させるには、そういったイベントをもとにして、常設できるようなものを作っていったほうが、本当に強さを発揮できるんじゃないだろうか。それには、同じものじゃなくて、こういう具合にやってやろうか、どうしてやろうかということがあるわけですけどね、やっぱり私は強さの発揮を、あれをもとにしたものでどうにかしてやろうかとういことですね。そういう思いなのですけどね。

山田会長：イベントにプラスして常設というイメージなのですかね。僕はどういうことをイメージされているのかと思って。

谷本委員：今は2日間でやっているわけですよ、それですごく人気があるわけですよ。それは、ほとんど地元の方を中心に、あそこが良いよということでやっているわけです、それを私は全国のお客さんに来てもらうような方向にしたらいいと思うのですよ。だから、2日間のイベントで終らせずに、常設にして、全国からお客さんを呼ぶようにしたらいいと思うのです。

遠藤委員：その2日間に県外から来てもらって、鳥取県中部にこういった店があることを知ってもらって、鳥取県に色々なお店があるのだからってことを理解してもらうようなことではなくて、ずっと常設でお店が入っていただく場所が欲しいということですか。

谷本委員：そうです。僕は、農産物の販売を中心にして、それを使った食べ物の店とか色々なものをイメージしています。今、農協さんが色々なお店を持っておられますね、赤崎から大栄から、これが凄い売上なわけですよ。あれは、ほとんどが地元の人なわけですよ。農産物があまり珍しくない方が利用しておられる、それを全国にお客さんを広げて、鳥取県に来たら本当に新鮮な野菜などの農産物が適当な値段で買えますよ、ということで買い出し旅行に来てもらう。それで、食べ物のスペースも整えて、飲み食いができる。

山田会長：分かりました、そういった意見があつたということをやまず受け止めてください。他にいかがですか。よろしいですか。

(2) パブリックコメントの実施について

山田会長：それでは、次の(2)のパブリックコメントの実施について、事務局お願いします。

竹田主任：説明をさせていただきます。資料の方は、資料3になります。本日協議いただきました共生ビジョンの素案ですが、こちらの内容につきまして、パブリックコメントを実施したいと思います。こちらの方は行政や懇談会の意見だけではなくて、広く、一般に、民間の方からご意見をいただき、その内容についてもこの計画に反映させていこうというものでございまして、意見の募集期間といたしましては、1月26日月曜日から、30日の金曜日までを予定しております。公表資料につきましては、今回用意しておりますビジョンの素案でございます。意見を提出できる方としましては、中部に住所を有する方、中部に事務所・事業所を有する個人及び法人その他の団体としております。その他中部の事務所・事業所に勤務する方、中部の学校に在学される方、その他案件に利害関係のある方を対象としております。こちらのパブリックコメントの募集の方法ですが、各市町の公式ウェブサイトはこちらの内容を掲載いたしまして、広報する予定としておりま

す。意見の提出方法としましては、住所・氏名・電話番号を明記していただき、各市町の担当課に直接提出いただくか、倉吉市総合政策課宛で郵便、電子メールまたはファクシミリによって提出をしていただく予定にしております。様式は任意でございまして、30日当日消印有効とさせていただきます。ご意見につきましては、ビジョン策定の参考にさせていただきます。後日公表等を予定しております。以上がパブリックコメントの実施についての説明になります。

<質疑応答>

山田会長：何かご意見等ありますか。はい、お願いします。

松田委員：基本的なこととお伺いします。私、最初の方に出ていないもので、このビジョンは必要に応じて見直し・改善ということが最初に書かれているのですが、その「必要に応じて」というのは誰がどのように評価して、検討される予定なのでしょうか。

竹田主任：ただ今質問いただきましたことですが、こちらにつきましては、各事業の定住自立に係る担当者会というものを毎年行政側で開催しておりますし、そちらの中で変更しないといけないような情報が有れば、対応させていただいておりますし、こちらのビジョン懇談会の方も毎年度開催させていただいておりますので、そちらの懇談会の場で、いただいた意見に基づきまして、変更等必要でしたら、その都度対応させていただいております。

松田委員：例えば認知症に関わる支援体制とか、予算立てがもうすでに成されているわけですけど、これからどんどん認知症が増えていく状況の中で、本当にこの予算立てで良いのかどうか、当然修正をかけていかなければならないところも多々出てくるじゃないかなというふうに思ったので。

山田会長：担当課プラス懇談会の意見を基に、とそんなところで、良いですか。

竹田主任：はい。

山田会長：それから、先程の強い意見も、今後の検討材料にしてくださいということです。パブリックコメントに関して他に何かありますか。よろしいですか。

布広委員：ひとつちょっと聞いてみたいのですが、パブリックコメントのやり方、方法というのは一般的にはこういった感じでやられるということですかね。今日が金曜日、期間が来週の月曜日から5日間、こういった短い期間で取りまとめができるかなというのがちょっとひとつ気になってはいるのですが、県の方でもよくやられてはおりますけれども、一般的にはこんな感じでやっておられるのですかね。

美船課長：ただ今いただきましたご意見ですけども、確かに今回の期間というのは一般的な期間からいうと短いと思います。最低でも、一般的な見方をすれば10日～1ヶ月というのは、だいたい標準的にはとってあるのかなというふうに思います。今回は、日程的なところで、ご提案させていただきましたけども、もしあれでしたらもうちょっと伸ばすことを考えさせていただけるかもしれません。少しお時間をいただけますか・・・

美船課長：2月6日まで伸ばさせていただくということに、代えさせて頂きたいと思います。

布広会長：1週間伸ばすということですね。

美船課長：はい。

布広会長：伸ばされて、後には特に影響はないということで良いですね。

美船課長：会議の開催については変更なく行うようにします。取りまとめの期間を、事務的なところを詰めていきます。

布広委員：わかりました。

山田会長：他にいかかでしょう。よろしいですか。じゃあ、期間を延長することを前提によろしくお願いします。一応、協議事項は以上のようなのですがその他各委員から何かありますか。それでは事務局の方から。

美船課長：今回提案いただきました素案につきましては、パブリックコメントとして1月の26日から2月6日まで、一般の皆さんのご意見をいただくようにさせていただきます。それで、またパブリックコメントによりましてとりまとめたものを、また次回のビジョン懇談会で報告をさせていただきます。またパブリックコメントの広報については、インターネットにより各市町のウェブサイトを通じて行います。

次回のビジョン懇談会の開催についてですが、2月17日火曜日の午後1時30分から、倉吉市役所大会議室、この会場で開催をいたしたいと思います。また後日開催通知を送付させていただきますので、皆様お繰り合わせの上ご参加いただきたいと思います。また、ビジョン懇談会の開催に先立ちまして、担当課長会を2月10日に開催をいたします。それについてはまた担当課長の方に連絡をいたします。以上でございます。

山田会長：それでは、今日の協議事項は終わったようです。せっかくこういう懇談会をやっているの、前向きな意見を取り入れられるっていうのを前向きに取り組んでほしいと思いますので、ぜひよろしくお願いします。では今日はこれで終わります。ありがとうございました。